

平成29年度武蔵村山市ごみ処理の状況

①ごみ総排出量 20,246t

②一人一日当たりの排出量 765.0g/人日
(多摩地域26市中17位)

③資源化率 33.8% (多摩地域26市中23位)

平成29年度のごみ総排出量は、市民の皆様のご協力により昨年度比197t減少しました。(表1)
また、一人一日当たりの排出量についても、昨年度比9.9g減少しています。(表2)
資源化率は、昨年度比0.5ポイント減少しており、ほぼ横ばいではあるものの、若干の減少傾向となっています。(表3)

表1 ごみ総排出量

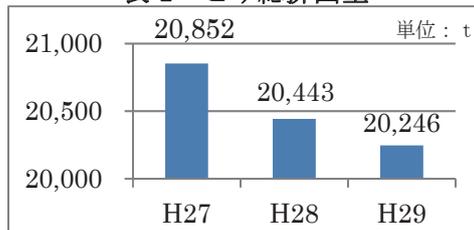


表2 一人一日当たりの排出量

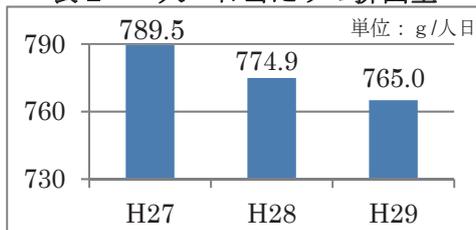
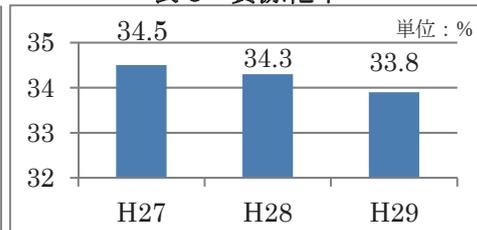


表3 資源化率



平成29年度ごみ処理経費

ごみを処理するにはお金がかかります。平成29年度実績は、1t当たり59,556円、1世帯当たりでは38,345円、1人当たり経費では年間16,629円かかっています。(表4)

表4 平成29年度実績

総排出量(t)	世帯数(世帯)	人口(人)	決算額(千円)		1t当たりの経費(円)	一世帯当たりの経費(円)	一人当たりの経費(円)
			清掃総務費	塵芥処理費			
20,246	31,445	72,510	85,248	1,120,525	59,556	38,345	16,629
			合計	1,205,773			

※人口及び世帯数は、平成30年3月31日の数値

ごみ分別アプリ配信中!

「今日出せるごみは何か?」「このごみはどう出せばいいの?」
などごみに関する疑問に便利なアプリを配信しています!

- ごみ収集カレンダー: お住まい地区の収集日が確認できます!
- ごみ分別辞典: 品目毎にごみの出し方を検索できます!
- アラート機能: 当日の収集区分を通知し、ごみの出し忘れを防止できます!
- お知らせ機能: 荒天時の収集状況等をお知らせします!
- マルチリンガル機能: 英語・中国語・韓国語・ポルトガル語で分別を確認できます!

ごみ分別アプリは右記QRコード又は「武蔵村山市
ごみ分別アプリ」で検索してダウンロード!



新たな一般廃棄物処理基本計画がスタート

本市では、平成30年1月に策定した一般廃棄物処理基本計画に基づき、本計画で掲げた目標達成に向けた各施策を展開し、ごみ減量・資源化を推進しています。

なお、詳細については、市ホームページで計画の本編又は概要版を確認してください。

計画策定の目的

一般廃棄物処理に係る長期的視点に立った基本的な方針を明確にするものであり、計画の基本理念を定め、数値目標を設定し、目標達成のための具体的施策、計画の推進について定めるものです。

本計画では、廃棄物処理の現状と課題を明らかにし、循環型社会形成の推進に向けた取組の総合的・長期的な方向性を示し、市民、事業者及び市が協働で取り組むごみの減量・資源化の適正処理の実現を目的としています。

計画期間と目標年度

平成30年度から平成39年度までの10年間とし、目標年度を平成39年度とします。

なお、5年目に当たる平成34年度に進捗を評価し、計画を見直します。

平成30年度

平成34年度

平成39年度



廃棄物処理の課題

本計画策定のため、家庭ごみ組成分析調査及び市民・事業者アンケート調査を実施し、ごみに関する次の課題を抽出しました。

発生抑制	○不用物を発生させない取組の推進	
	○生ごみの減量の推進	
	○家庭ごみ有料化の検討	
資源化	○集団回収・拠点回収による自主的な資源化	
	○雑紙（ざつがみ）の資源化	
	○容プラの資源化	
	○容プラとペットボトルの分別区分の検討	
適正処理	収集	○集積所の維持・管理の推進
		○戸別収集の検討
		○収集回数数の検討
		○廃棄物処理業者への委託の推進（事業者）
		○指定収集袋の使用の推進（事業者）
	中間処理	○ごみ処理施設の整備
		○3市共同資源化事業の推進
		○資源物処理施設の検討
	最終処分	○搬入量の減量
		○埋立ゼロ

○災害時の廃棄物対策の検討

○発生抑制・資源化・適正処理を推進するための普及啓発の検討

循環型社会形成に向けた取組

循環型社会の実現に向け、可能な限り不用物になる前の段階での対策を重視し、次の基本理念を掲げ、4つの基本方針に沿って、本市の課題解決及び計画の目標達成に向け、各施策を展開していきます。

基本理念 市民、事業者及び市が協働して4R^{*1}で目指す循環型社会形成の推進

基本方針1

リフューズ(断る)・リデュース(発生抑制)・リユース(再利用)の推進

- 3つのR^{*2}の促進に関する普及啓発
- レジ袋の削減
- 生ごみの減量
- 製造・販売事業者への要請
- 家庭ごみ有料化の導入

基本方針2

リサイクル(資源化)の推進

- 分別の周知
- 資源回収の拡充
- 排出事業者への要請
- 販売事業者への要請
- 再生品の利用の促進
- 資源物抜取り防止

基本方針3

適正処理の推進

- 適正排出の推進
- 事業系ごみの適正排出の徹底
- 適正な収集体制の維持
- 処理困難物への対応
- 不法投棄対策
- ほか6施策(省略)

基本方針4

市民・事業者・市の協働

- 普及啓発手法の活用
- 市民・事業者・市の双方向の情報交換
- 環境教育・学習の実施
- 国・都・他自治体などとの連携
- 市での率先的な取組

*1 4R：循環型社会形成の推進に必要な「リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル」の4つを指します。

*2 3つのR：優先的に推進すべき、不用物になる前の対策である「リフューズ・リデュース・リユース」の3つを指します。

指標の設定

本計画の進捗を管理するため、目標指標を設定します。

目標指標とは、本計画において達成目標を定め、計画の進捗状況を管理する指標で、次のように設定します。

目標指標	指標1	排出物原単位 (g/人日)	総排出量 ^{*1} ÷年度末人口÷年間日数
	指標2	収集ごみ量原単位 (g/人日)	収集ごみ量 ^{*2} ÷年度末人口÷年間日数
	指標3	リサイクル率(資源化率) (エコセメントを含む) (%)	総資源化量(エコセメントを含む) ÷総排出量×100

*1 総排出量＝収集ごみ量＋持込ごみ量＋資源量＋集団回収量

*2 収集ごみ量＝可燃ごみ＋不燃ごみ＋粗大ごみ

※ 本計画では上記の目標指標とは別にモニター指標を定め、計画の進捗状況を評価していきます。

目標値の設定

本計画の施策を着実に実行することにより、中間年度の平成34年度と最終年度の平成39年度の目標指標について、目標値を次のように設定します。

目標値の設定は、平成28年度実績に基づき、発生抑制による減量効果を毎年1%ずつ見込むとともに、ごみの中に含まれる資源物の分別の徹底が進むものと考え、算出しています。

なお、平成34年度については、家庭ごみの有料化を予定しているため、有料化に伴う減量効果を10%見込んでいます。家庭ごみの有料化及び戸別収集の導入に当たっては、市民の皆さんの意見を伺い、制度に反映させます。



出前講座をご活用ください

本市では、市内に在住、在勤、在学する人で構成された10人以上のグループ・団体を対象に出前講座を実施しています。ごみ処理の現状や一般廃棄物処理基本計画の内容など、ごみに関することであれば、ごみ対策課の職員が出向き講座や説明を行いますので、ご活用ください。

申込方法等の詳細については、下記担当へお問合せください。

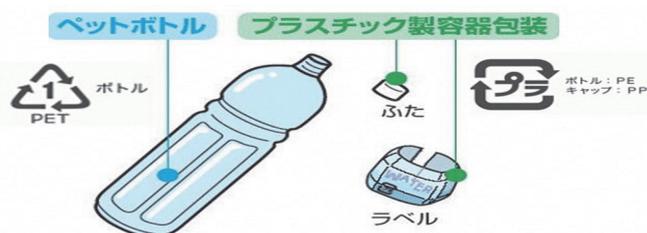
問 合 せ 先
 教育委員会 教育部 文化振興課 生涯学習係
 TEL 042-565-1111 (内線656)
 FAX 042-566-2619

平成31年4月から容プラ・ペットボトルを中間処理する 小平・村山・大和衛生組合 資源物中間処理施設が稼働します

現在、東大和市桜が丘に建設中の小平・村山・大和衛生組合 資源物中間処理施設において、小平市、東大和市及び本市の3市から排出される、容器包装プラスチック及びペットボトルについて共同処理を開始します。本市の排出方法に変更はありませんが、分別ルールの徹底にご協力ください。

キャップ・ラベルを外す

汚れたものは軽く洗いきれいにする



発行/武蔵村山市協働推進部ごみ対策課

TEL 042-565-1111 (内 292~294)

ホームページ/<http://www.city.musashimurayama.lg.jp>